2023 年第 2 回 IEEE 東京支部理事会　議事録（案）

日　時：2023 年 6 月 1 6 日（金）15:00～17:00
場　所：東芝本社ビル　39 階会議室
出席者：相澤 Chair、佐田 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasure
<以下、順不同>
添谷 COC Chair、森田 FNC Chair、賀屋 MDC Chair、中村 NC Chair、秋田 TPC Secretary（代理出席）、植村 SAC Chair、廣畑 PC Chair、鈴木 HC Vice Chair（代理出席）、太田 LMAG Chair、石垣 YP Chair、Kawamoto WIE Chair、中野 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasure、西宮 SIGHT Chair、梶川 JO Executive Administrator
事務局：加藤、福岡
幹事会社：金、木村

議題：
1. 前回理事会議事録の確認【審議】（資料 1）
2. Japan Council 理事会(2023 年第 1 回)報告（資料 2）
3. 2023 年中間会計報告（資料 3）
4. 委員会活動報告
・ Chapter Operations Committee（資料 4-1）
・ Fellow Nominations Committee（資料 4-2）
・ Membership Development Committee（資料 4-3）
・ Technical Program Committee（資料 4-4）
・ Publications Committee（資料 4-5）
・ Student Activities Committee（資料 4-6）
・ History Committee（資料 4-7）
・ Nominations Committee（資料無し）
5. Affinity Group 活動報告
・ Life Members Affinity Group（資料 5-1）
・ Young Professionals Affinity Group（資料 5-2）
・ Women in Engineering（資料 5-3）
6. その他
・ R10HTC2025 開催について（資料 6-1）
・ SIGHT 報告（資料 6-2）
・ 東京支部会員へのメール配信について（資料 6-3）

【議事】
０．IEEE 東京支部相澤 Chair より開会の挨拶

相澤 Chair より開会の挨拶が述べられた。

１．前回理事会議事録の確認　　【審議→承認】　　（資料 1）

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

２．Japan Council 理事会(2023 年第 1 回)報告　　（資料 2）

奥村 Secretary より JC 理事会（2023 年第 1 回）での内容の報告があった。会計に関して、＄1＝109 円で予算を組んでいたが、実際には急激な円安により＄1＝139 円となり、収入が増えた一方で、ポストコロナで活動が活性化し、その結果 2021 年より支出が増えたが、アクティブな活動を想定して作成した予算には到達しなかった。その結果、2023 年の繰越金が想定した額よりも増えたため、2023 年はより活発な活動を期待したい。また、COC、SAC、IPS、ARC、MD、YP、25 周年記念イベントなどの報告があった。

3. 2023 年中間会計報告　　（資料 3）

樋口 Treasurer より 2023 年中間会計報告があった。収入は Section Assessment と Section Rebate があり 2022 年より少し増額されたこと、支出は LMAG イブニングサロンの懇親会徴収分、総会費用などがあり、参加者が積極的に懇親会に参加したことが影響し予算を超過したとの説明があった。また、Senior Member のメダル購入、ピンバッジ送付等の費用などの広告費があったこと、LMAG 活動費については当初の予算超過が見られるが、ファンドの適用が見込まれるので、予算内に収まるとの説明があった。また、Section Rebate の入金通知があった際に本部から送られてきた資料について、各自の部分を確認するよう依頼があった。

4. 委員会活動報告　　（資料 4-1）

・ Chapter Operations Committee

添谷 COC Chair より、国際会議 Sponsorship(MOU)に関して TCS1 件、FCS1 件に関する対応審議及び東京支部への承認答申を行ったこと、TCS は ICCI2023、関連支部は東京、札幌、仙台、信越の 4 支部であること、FCS は NVMSA2023 で、全支部に関連するとの説明があった。また、IEEE JC COC のミーティングの情報共有として、予算超過時は、再度理事会にかけ増額を図ることや、Chapter 支援審査業務を 2024 年 1 月より東京支部へ移行するための準備を進めたいなどの説明があったことについて報告があった。

質疑応答では、奥村Secretaryより2022年予算の実績に対して2023年の予算が低い理由について質問があり、後日高村JC COC Chairに確認することになった。

・ Fellow Nominations Committee　　（資料 4-2）

森田 FNC Chair より、他学会への働きかけに関連して、2000 年から（電子情報通信学会発足が 2000 年）各年の当学会の昇格者と、その中の IEEE の Fellow の割合（1995 年以降）を HP の情報をもとに調べた結果について報告があった。電子情報通信学会全体の 975 人の中で、IEEE の Fellow でない方は 767 人と多数であること、2010 年辺りの昇格者に絞って働きかけをすることを検討中であるが、所属と連絡先がわからないことや、人物と所属が結び付けられていない課題があるなどの説明があった。

質疑応答では、相澤 Chair より、電子情報通信学会で主要ポストを経験しているので橋渡しできるとの提案があり、JC で高村 JC COC が電子情報通信学会の事務局との打ち合わせを行っているので、そことの連携も含めて FNC として検討することになった。

・ Membership Development Committee （資料 4-3）

賀屋 MDC Chair より、今月時点の会員が 7,192 人で前年同月比として 136 人増、前月比は 185 名増であること、Senior Member が 2022 年は 36 名、2023 年は 10 名昇格しているとの報告があった。また、継続会員 780 名と Senior Member 昇格者 36 名へのピンバッジの送付状況や、JC IPC 主催の講演会でブースを立て MD 活動の PR をしたことなどの説明があった。更に、前回理事会で質問があった、会員が 60 名減少している原因関して、Life Member や Senior Member に昇格していることが主な原因で会員自体が減少しているわけではないと捉えているとの回答があった。

質疑応答では、新規会員向けの入会費ディスカウントや、国際学会に参加する際、会員分だけ経費がかかるが、その分を会費に充てるなど、会員にもその恩恵を受けられるシステムに関するコメントがあり、賀屋MDC Chairからそれも含めて会員増に向けた施策を検討するとの回答があった。

・ Technical Program Committee （資料 4-4）

秋田 TPC Secretary より、第 1 回は総会時にキオクシアの鬼頭様に「三次元フラッシュメモリの開発と将来の展望」について講演頂いたこと（参加者 43 名）、第 2 回は JC IPC 主催、 TPC 共催で開催し、DL の Dr. Karen Haigh に講演頂いたこと（参加者 94 名）などの説明があった。また、第 3 回は延期になったものの、第 4 回は慶応義塾大学の笹瀬 巌様に「ワインの楽しみ方入門の講演」について講演頂いたこと（参加者 57 名）について報告があった。そして第 5 回、第 6 回、第 7 回の講演の予定や、TPC 主催の講演を 10 月以降に 2 講ほど検討中であるなどの説明があった。

・Publications Committee （資料4-5）

廣畑PC Chairより、相澤先生より新支部長就任のご挨拶の記事、LMAG総会、新Fellow表彰式、支部講演会、理事会、支部総会の様子の記事を発行したとの報告があった。次回以

降はLMAGイブニングサロン、TPC講演会、本日の理事会の様子を記事にするなどの説明があった。また、これら以外にもマンガプロジェクトの活性化に関する話などについて記事にすることを検討しているとの説明があった。更に、HPの更新状況や、補足情報として、R10のニュースレターの記事についての報告もあった。

・ Student Activities Committee （資料 4-6）

植村SAC Chairより、5/14に「初学者のためのLaTeX セミナー」を複数のSBが共催したこと（参加者70名）、5月下旬に東京電気通信大SB主催で「レポートの書き方講座」を実施したこと、2023年のStudent Representativeが東京農工大の臼井久生氏（2022 年 Chair）に決定したことなどの報告があった。また、YPにSB ChairやTowers Chairが入っているSlackに参加頂いたこと、Student Paper Contest (Seoul) への学生参加・旅費支援を検討中であることなどの説明があった。更に、9月頃に社会人と交流するようなキャリアワークショップの実施を検討中であることなどの報告があった。

質疑応答では、SB の活動の見える化について提案があり、植村 SAC Chair から東京支部 SAC の HP 上に、SB のイベントに関するリンクの場所を作るなどの検討をするとの回答があった。

・ History Committee （資料 4-7）

鈴木HC Vice Chairより、現在東京支部が進めている7件のマイルストーン案件について報告があった。具体的には、パルスオキシメーターの案件に関連し、マイルストーンにおける個人名の掲載に関してHCで承認待ちの状態との説明があった。また、TRONのリアルタイムのOSの案件に関連し、懇親会は開催しない方向で、講演会についてはまた状況が明確になったら報告することなどの説明があった。更に、現在 3 件がマイルストーン申請準備中の状況であること、パナソニックからビデオカメラの手振れ防止システムが提案され、手続きを進めていることなどの説明があった。

・ Nominations Committee

中村 NC Chair より、次期東京支部の役員・理事の選出手続き作業について説明があった。現在理事会出席者は 2023～2024 年の担当の方々だが、次の 2025～2026 年の方々を決める作業について、今年 2023 年の第 4 回東京支部理事会にスケジュールを提案し、2024 年の第 2 回の理事会で承認頂く予定であることの説明があった。

Affinity Group 活動報告

・ Life Members Affinity Group （資料 5-1）

太田 LMAG Chair より、今年のはじめに MDC と連盟で Life Member に Life Senior への昇格の勧誘の手紙が 2 名の昇格に繋がったことや、LMAG News Letter 37 号の発行、R10

の News Letter、IEEE 本部の Life Member News Letter に 3 本寄稿するなどの広報活動についての報告があった。また、講演会やイブニングサロンについては、第 1 回は TPC と共催で 3 月に開催し、第 2 回は DL の講演を JC の IRC が主催、LMAG が共催したこと、第 3 回はイブニングサロンを東京支部の TPC、YP、東京支部－信越ジョイントの WIE との共催で開催したとの説明があった。更に、R10 を通してファンドを申請し承認されたこと、今後の予定などについても説明があった。

質疑応答では、地方の Life Member の方々も参画頂けるよう進めてほしいとのコメントがあり、太田 LMAG Chair からオンラインの良いところを生かすなど、今後もやっていきたいのでご協力をお願いしたいとの回答があった。

・ Young Professionals Affinity Group （資料 5-2）

石垣 YP Chair より、4 月より新体制でスタートしたこと、4/22 に YP Meet を開催し、各 Section と交流したこと、4/30 に東京 YP キックオフミーテイングを開催し、活動予定を共有したこと、5/20 に YP サロンを開催したことなどの報告があった。YP として、このような活動を通して、若手を引き入れる機会にしたいとの説明があった。また、8 月に子ども向け教育系イベントを検討中であること、11 月の学生向けにキャリア系イベントは、SAC のイベントにシフトして共催するか検討中であること、東京 YP の銀行口座を東京支部へマージすることを検討していることなどの報告があった。

質疑応答では、キャリア系のイベントは企業の採用担当にも声をかけると良い、海外の人も引き込み活動を活性化させ、会員数を増やすことにつなげるといいのではという提案があり、石垣 YP Chair より国際的なことも視野に入れていきたいとの回答があった。

・ Women in Engineering （資料 5-3）

Kawamoto WIE Chair より、3/8 に Online Coffee-break を実施したこと（参加者 8 名）、5/25 のイブニングサロンに現地参加者を動員したこと、R10 の News Letter にイベントの活動報告が掲載されたことなどの活動について報告があった。また、6/23 に Online Coffee-break for International Women in Engineering Day を予定していること、Annual Symposium が 12/2 か 12/9 に東京での開催を予定していること、2024 年は信越で開催したいと考えていること、6 年ぶりのオンサイト IEEE の Sections Congress には信越支部の旅費支援を頂き、Chair が出席予定であることの説明があった。

6. その他

・ R10HTC2025 開催について （資料 6-1）

奥村 Secretary より、東京支部主催で R10 の HTC（Humanitarian Technologies Conference）2025 に関する国際会議を、2025 年 9 月頃に千葉商科大学で開催したいという提案があっ

た。実現すれば 12 年ぶりに日本での開催となり、予算は R10 の独立予算であること、橋本先生、滝嶋 Past Secretary、西宮先生、大野先生が中心で進めること、R10 への提案の締め切りが 8 月であるため、6 月中に東京支部での承認要請が出ていることなどの説明があった。

西宮 SIGHT Chair より、主催の形態は色々とあり、第 1 回の時は主催が R10 で、日本の全 9 支部が共催という形だったが、今回の開催の形が実際に決定したら、修正案を出すとの説明があった。また、現状は検討段階として、場所が東京ということと、分野が SIGHT 関連なので、東京支部と SIGHT が主導で申請させて頂く形で進めたいとの提案があった。

質疑応答では、R10HTC2015 開催について審議され、承認された。

・ SIGHT 報告 **（資料 6-2）**

西宮 SIGHT Chair より、SIGHT 内のミーティングを開催したこと、8 月開催予定の Humanitarian Activity を活性化することを目的としたワークショップを 8/5 で開催することを検討中であること、HTC 2025 の日本誘致に関連し、インドで 2023 年に開催される HTC に 1 名派遣したいこと、ワークショップとインドへの派遣に関する予算に関して、R10 のファンド申請を検討していること、申請が通らない場合はワークショップの規模を抑える予定であることや、申請結果によって東京支部への予算申請額が変わることなどの説明があった。

質疑応答では、SIGHT に関する予算審議についての議論があり、予算に対して無事に承認された。

IEEE 東京支部会員向けのメール配信の処理について **（資料 6-3）**

奥村 Secretary より、東京支部向けのメール配信は委員会 Affinity Group など、支部の組織から配信がある場合、その都度 Chair が内容確認し、承認していたが、迅速化、簡略化するために各委員会や Affinity Group の Chair の判断で配信を行う、権限を委譲することにしたいとの提案があった。

質疑応答では、手続きのポリシーについて IEEE ポリシーに反しない範囲できちんとドキュメント化すべきという提案があり、奥村 Secretary からドキュメント化を進めるとの回答があった。また、ドキュメント化することを前提に権限委譲の提案について承認された。

その他

梶川 JO Executive Administrator より、JO の採用活動について、IEEE 本部でも SNS を用いた発信に力を入れている流れもあり、JO としても Twitter を用いた広報活動を進めてい

るなどの説明があり、JC の方でも SNS 活動を検討中なので、JO との連携も含めて進めていく予定。